

# 昭和62年度 和歌山県文化功労賞

もり 森 かん 寛 しょう 紹 (号 白象)

住 所：和歌山県伊都郡高野町

出 身 地：愛媛県温泉郡重信町

生 年：明治32年

## ◎業績及び経歴

明治43年、11歳のとき高野山普賢院に入寺。大正15年関西大学法文学部、昭和5年高野山大学文学部を卒業する。俳句は高浜虚子に師事し、昭和5年より「ホトトギス」に投句を始める。以来、現在に至るまで投句を続け、昭和24年からはホトトギス同人として活躍。昭和29年には紀伊山脈刊行会の結成に参画。同会は全国的にも珍しい流派を越えた統一俳句集の刊行会として、昭和48年には県文化奨励賞を受賞したが、氏は、昭和55年から現在まで会長を務めるなど、分立の厳しい俳句界において、熱意と人格により、流派を越えて一処に集うという困難な仕事を続けてこられ、その功績は大きいものがある。

また、毎年、高野山で行われる全国俳句大会の開催に努力され、現在、高野山において「ホトトギス」のみならず各流派の句会が開かれるなど、本県の俳句文化の向上に努力された。

句集には、「高野」、「仏法僧」、「遍路」などがあり、「芭蕉と高野山」では高野山と芭蕉の関係を世に知らしめた。

## ■現在

俳人協会評議員(昭和53年より)

毎日新聞紀州俳壇選者

## ■主な表彰歴

叙勲 銀杯1号下賜(昭和45年)

## ■主な句

「涼しさや奥の院まで坂もなく」

高野山 奥の院参道 句碑